

## 南三陸復興ボランティアを開催 支援の手はまだ必要だ

9月19日～22日、宮城県南三陸町において、ぐんま労福と連携した震災復興支援ボランティアを実施しました。津波による塩害を受けた農地の復旧作業のため、労働団体・事業団体をはじめ、議員懇から、あべ県議が参加し、41名で作業を行いました。

既に重機で農地の60～70cmほどの土砂がかき出された後の、細かなガレキをスコップやツルハシ、ピッケルなどを使いながら取り除いていく作業でした。



細かなガレキを少しずつ取り除く作業

参加者からは、「これまで都合がつかず参加することができなかつたが、今回やっと参加できた。自分の目で被災地を見て、復旧作業をして手助けができた」、「昨年に続き、約1年ぶりに南三陸町を訪れたが、震災前のように町が自立できる状況ではなく、まだまだ支援の手は必要だ」などの感想があげられました。



## 嶺公園森林整備ボランティアを実施



森林整備作業に参加した仲間の皆さん

10月12日、産別・地協から43名が参加し前橋嶺公園で整備作業を行いました。



整備作業は、木々の間に茂る下草や篠を刈り、カマを用いてファイト！落ち葉や折れた枝を集めるなど、例年より暖かく感じる秋晴れの下、見違えるほどきれいな森となりました。

参加者からは、「見違えるほどきれいになり、次は散歩もいいかも」、「森の中が見渡せ、木々も元気になった感じがする」といった声も聞かれました。

この作業は、群馬県「企業参加の森づくり」として、ボランティアを行いたい団体と整備が必要な森や雑木林とを県が橋渡しするもので、複数の団体で分担して整備しており、連合群馬もその一角を担当し、今回で3回目の活動となります。

来年の春も計画しますので、奮っての参加をお待ちしています。

## 北方領土返還要求署名を提出

10月1日、群馬県庁において、今年1年間組合員の皆さまと共に取り組んだ、北方四島の返還を一日も早く実現するための署名(47,019名分)を、群馬県企画部国際戦略課へ提出しました。

連合は平和と友好を希求する労働組合の立場から、北方領土返還運動に、構成

組織・地方連合会と力を合わせて取り組んでいます。連合群馬も北方領土返還要求群馬県推進連絡協議会(県民会議)からの要請に基づき、署名運動に継続して取り組んでいる他、連合本部主催の「平和行動in根室」に参加しています。

吉田副会長(左)  
向田国際戦略課長(右)



### 北方領土返還要求群馬県推進連絡協議会(県民会議)とは

独立行政法人 北方領土問題対策協議会(北対協)が直接の窓口となり、当時の総務庁(現在の内閣府)と北対協、各都道府県からの県民会議の設立要請に基づき各地で随時設立され、群馬県では、1979年(昭和54年)4月13日に設立されました。

連合群馬発足時から県民会議に加盟しており、現在の会員は27団体(地婦連・青年団・自衛隊父兄会・郷友会など)で、現在、県庁国際戦略課が窓口となっています。

## 東日本大震災復興支援カンパ金を寄付

各地協が、連合群馬ふれあいフェスティバル会場で自主的に取り組み集約した震災復興カンパ(601,013円)を、10月1日に日本赤十字社群馬県支部へ寄付しました。東日本大震災からの復旧活動をはじめ、近年、各地で猛威を奮っている自然災害からの復旧活動にも役立てていただきます。ご協力いただいた皆さまに感謝いたします。



川田事務局長

吉田副会長